

まゆだま

2011. 10. 4. 発行
No. 349



連絡先：高田（榎原小学校）
東京歴教協 八王子支部

9月の例会報告：「9. 11と3. 11」

～ 「9. 11」から10年、「3. 11」から半年を過ぎた9月の半ば。秋晴れのさわやかな午後に、西八王子の台町市民センターに多くの学び人が集まりました。～

今回は、社会・総合の授業で「学びの視座」という題に興味をもった先生方がたくさん集まりました。教科担任制で社会を受け持って困っている先生、東北被災地にボランティアに行った先生、東北出身の方、震災や同時多発テロの教材化に興味を持った先生方が集まりました。特に初参加の20代の先生が数名(中には教育実習生も!)いらして、このテーマの重さと深さを考える良い学び合いの機会となりました。まさに八王子支部が目指す”異年齢集団の学び合い”がここで展開されています。

報告者の西村さんは、あの日、3. 11を勤務校で迎えました。幸い「成績処理日」で休校だったこともあり、子ども達を避難させる心配は無かったのですが、6年生の担任だったので、休校明けの「ぶっつけ本番卒業式」への影響は計り知れないものがありました。このような災害の中で巣立っていった子ども達のこと是一生忘れません、とこの授業を創り上げるきっかけを語ってくださいました。

年度が変わり6月、とある研究会で、「あの9. 11と3. 11を結び付けて考えることができるか」という話し合いがなされた時、その2つは「時事問題として扱う」ことができるし、「人間として安心して生きられる社会を考える」ことができるのではという意見が出され、西村さん自身も「この2つを結び付けることを教材にしよう」という思いを強めることになりました。こうして学びの視座作りが始まりました。

1. はじめに【教材探し】

- 震災の中を生き抜く子どもの記事→子どもの興味を引き出すきっかけとなる教材
- ◆チェルノブイリ25年からフクシマ元年へ→小学生が自分の問題となる教材

2. 授業への思い【授業の展開】

- 子どもが主人公である記事を活用する →出来事をより身近に感じる。
- ◆原発の事故、問題は今に始まったことではない →核の平和利用は可能なのか？
- ★フクシマの人達の生活を考える →憲法記念日に生存権(憲法25条)を知る。

3. 事実と理論【憲法と震災】

- *憲法と国民生活は密接な関係にあることを理解する。
- *憲法と政治は密接な関係にあることを理解する。

4. 時事問題を扱う視点【節目の重視】

- *3. 11から4ヶ月たった新聞記事 →政治は何をしなければならないのか(問)
- *被災地の状況を見つめ政治の現状を考え合う →子どもならではの政治論議(答)

5. 授業の山場【9. 11を迎えて：1】(5年生版)

- *その当時の高学年とは「9. 11」を学んだ。しかし今年(2011年)の子ども達はその日のことをほとんど知らなかった。10年の年月の影響は少なくない。
- *そこで、今年度、新卒で勤務している先生(当時アメリカに在住していた)による当時のふりかえり授業を企画。 →映像、体験者による伝承・・・より効果的

【9. 11を迎えて：2】(6年生版)

- *テロの遺族によるイラク派兵反対の運動の様子(=皆が同じ行動ではない)
- *「暴力の連鎖」をどう考えるか(=戦争による解決はありえない)

6. 授業のまとめへ【9. 11と3. 11の共通点】～6年生が考える共通点とは～

- *いきなり平和が奪われたこと
- *急に家族や大切なものを失ったこと
- *国や人の考え方が変わったこと
- *悲しみや苦しみが増えたこと

<授業のねらいとまとめ=学びの視座>

★時事問題★歴史学習★憲法学習★平和学習

子ども達それぞれが、心に平和を感じイメージできることをねらいました。単純に「テロの反対=平和」というだけではなく、「人権の尊重が維持」されることの重要性も憲法を通して知ることになります。フクシマは、ヒロシマ、ナガサキ、第五福竜丸、チェルノブイリと続く「核の負の歴史」を学ぶ、平和学習にもつながるのです。



感想 質問 意見 交換



- 6年生の授業の展開としては、指導書の3学期分の前倒しなんでしょうか。やはり時事問題は、その授業の時期や取り上げる中身が問われていきますよね。
- 自分は当時17才で、この同時多発テロの映像は、もちろん非常事態ということではありますが、これからどうなるかという意味で、この場では不謹慎かもしれませんが、ワクワクしたようなことがありました。その後、そういう自分が教師になって、直接の体験者でもないのに、この9.11のことをどう伝えていければいいのか？教師の使命感で伝えるのか？自分のそのままを伝えるのか？といういろいろ考えてしまいました。この授業を聞いて、今は正直、複雑な心境です。
- 子ども達の反応がとても真っ直ぐなことに驚きました。特にこの授業では自分の意見を書くプリントが用意してありますが、内容的には大人でも答えにくいようなこれらの質問事項を、先生はどのようにして考えついたのですか？
- 映像などの入手方法はどのようにするのですか？子どもの政治批判はよいのですが、批判から、さらにもう一步踏み込んだ意見を出させるにはどうしたらよいのか？それについて、西村先生の考えを教えてくださいたいと思います。
- 地球規模で起きていることも、他人事ではなく自分事として考えるような授業（問いかけ）にしていくことが大切なんだと、今日の西村先生の授業を聞いて感じました。自分も、これからそういう授業をしていきたいと思っています。
- 同時多発テロと東北大震災をつなぐというところは正直ピンとは来なかった。しかし、事実から人の優しさを作っていくような授業を目指していくべきなんだということ学びました。だから2学期の今後、そういう授業を目指します。
- 週刊誌にこの2つの共通点は、「何かを失った」、「国が一つになった」ということが出ていました。教師は、「この出来事から何を学んで、今後どう生きていくかを考える授業」を考えていくことが大切だと思います。また被災地を学ぶことを通して憲法25条、26条という憲法学習につなげられると思います。被災地ボランティアに行った若い先生が「伝える側になりたい」と考えるようになっていきました。東京で暮らす私たちに聞こえる報道以上に被災地復興は終わっていないので、私もこれから「伝える授業」のことを考えていきたいと思っています。
- この二つの事実を体験した時、自分はまだ学生でした。その後、何も考えずに教師になってみて、こういう学びでは自分自身が教材だということに気付かされました。社会科の授業の在り方は、教材の作り方はとても大切だと知りました。
- プロの教師としてまずは、新聞やTV番組、そして本屋へ通い自分の目や手足で”日々教材を集めること”を心がけ、教師の引き出しを増やそうと思っています。

午前中に展覧会・学習発表会・学校公開・文化祭などいろいろな行事を終えて参加した方や、前日に被災地ボランティアから帰ってきた方、お茶菓子を差し入れてくれた方、同僚や後輩を連れてきてくださった方など多くの人々の絆があって、この例会が盛況の中で進めることができました。一番は今日の内容の大切さでしょう。学びの視座は教師なら誰でも持っていたいもの。でも忙しい教師の学びはいつやるの？「今」でしょ。教師に今度また、は無いのですから。



- 4年生の担任です。今の子ども達は、まさに9.11の時に生まれました。朝の会で話した時、この事実を全く知りませんでした。そのことが凄くショックで、でも同時に何とかしなきゃと思っていて・・・、今日、この例会で学べて良かったです。
- 自分もいまだに死体や残骸を見るのは苦手で、簡単には受け止められません。小学生にとっても、映像や資料作りで「拒絶されないで心に刻まれる教材」というのは何かを、この機会に考えて、探していきたいと思います。
- 新聞記事で知らない人の話を授業で扱う。それを自分の問題にできるような授業をしてみたい。まだその2つの結びつきが十分理解できないが、3.11は自然災害、原発や同時多発テロは人災で、だけど広く言えば、首相や原発政策を選んだ自分達の選択責任もあるのではと、授業を通していろいろ思っています。
- 私も学生だったので、自分にとってどちらも恐怖でした。教師を目指していて、こういう教材は絶対にやらなくてはいけないと思いました。第2次大戦の学習でも、単に教科書を読んだだけではわからないが、体験した人に聞いたり映像を見ると本当に嫌だと思ふ。ただ被災地の方々の悲劇や悲しみだけでなく、こういう出来事があっても生き抜く「人間の強さ」を伝えていきたいです。
- この夏、ヒロシマで母親の会に参加してきました。ヒロシマもフクシマもテロも、出来事のねっことは同じだなあと思いました。また被災地の話はほんの一部分しか伝えられていなくて、それはテロの時のアメリカ寄りの報道と似ている様な気がします。教師ももっと勉強しなきゃと思いました。ありがとうございました。



9月例会に参加した皆さんの感想 ～順不同～

- 今日は有り難うございました。単なる時事問題では片付けられないこの9. 11と3. 11を小学生にどう伝えていくのかが興味があり、参加しました。体験していないとわからないことはたくさんありますが、それでは歴史は学べません。歴史から何を学ぶかを教師が提示する「視座」が大事なのだとあらためて思う報告でした。
- 様々な資料をたくさん集められ、事実をしっかり伝え、子ども達に十分に考えさせてとてもいい授業を伺いました。今日はたくさん学ばせていただきました。
- 子どもの考えがたくさん書いてあるレジメがとても良かったです。語り継いでいくためには、教師自身が事実を知り、それを子ども達に伝えていくことだと思いました。報告後も、参加者の皆さんといろいろな経験を踏まえた話し合いができたこと良かったです。これも例会に参加して学べる良さですね。ありがとうございます。
- タイムリーな出来事を授業で扱うことにより、子どもが真剣に考えるきっかけを投げかけていることの素晴らしさを感じた。授業者の願いがはっきりしていて、それに近づくように授業を作っている。また、子ども達に自分の問題として考えさせるところがすごい。例会の話し合いの中でどんな資料を扱ったらいいのかを議論できる集まり(例会)の質の高さを感じている。今後もこのような学び合いを期待。
- 普段の授業実践の報告が伺えて、とても参考になりました。参加者の皆さんのお話も良かったです。今後も、西村先生の実践をまだまだ知りたいです。
- この2つの出来事は、今後も伝えていくべき出来事なんだとあらためて感じました。”継承”していくべき出来事ではあっても、それを伝え教える教師が、どのようなモチベーションを持っているかが大事なのかなと思いました。この出来事を児童に伝えていきたい授業者の思いが伝わってきました。そしてその出来事を知った子ども達が”どうなってほしい”という思いも、それ以上に伝わってきました。
- 事実を意識して子ども達に伝えないといけないと強く感じました。様々な課題が山積みしている中で、伝えたいことの切り口を考えていきたいと思います。事実を学ぶことから未来を考えることが始まりますね。
- 平和について学習する上で、”事実”を知る為のみの学習にとどまらず、”事実が人の優しさを築く”学習を目指したいと改めて感じました。西村先生のお話を聞いて、教師その人の思いやこだわりが、教材選び、授業作りにつながるのだと感心し、今日はとても勉強になりました。社会科を受け持つ時にぜひ参考にしたいです。
- 大震災や同時多発テロを考えるのは重い問題であるし、伝え方が難しいと思ってきましたが、体験者の話を聞くことがとても大切で、ひとり一人の具体的な経験や事実を伝えて考えさせていくことが、一番子ども達に”本当のことを伝える”ことになるのだなあと、今日の実践報告を聞き、話し合いを通して、思いました。
- 3. 11以来、私が学生時代を過ごした思い出の地で起きた千年に一度の出来事については、子ども達に何か伝えたい、伝えなくては!という思いで毎日を過ごし、手探りながらも思いを伝える活動を探してきました。今日の例会にも、本格的に授業を組み立てる手がかりを見つけないかという思いで参加しました。今回の報告は、3. 11と9. 11をどういう視座で学ぶかということで、本当に明確でためになりました。被災地で生きている人の気持ちに寄り添える子どもを育てることが、本当に大切なことだと思いました。時事問題の取り扱いは難しいけれど、何か結論を出すのではなく、自分の頭で考える、自分の考えを持つ、ことがまず一つの目的になっていくのだなあと思いました。歴史(昔のことも・今のことも)を学ぶということは、その時に、そこで起こった事柄を忘れないこと、忘れてはならないことがそこにあることを胸に刻み込むこと、だと思いました。

- とても勉強になりました。私自身9. 11と3. 11を教材として使いたいと強く感じてはいたのですが、今日の例会で教材の具体例を教えていただいたので、絶対に教材にしなければならない!と思いました。自分の中でこの2つの出来事を授業で取り扱う際、授業のゴールをどのようにするかを考えつかなかったのですが、「共通点は何か」を子ども達に問うという1つの学びの視座(具体例)を教えていただき学ぶことができたので、自分が教師になった際には、ぜひこのような授業をしたいと思っています。また、帰国子女の鈴木先生のお話を授業の中で聞くことができた子ども達は、「生きた教材」に触れることができ、本当に幸せだなと感じました。これから先、この2つの出来事だけでなく時事問題や歴史を、”いかにして子ども達にとって身近なものとして考えさせることができるか”を様々な視点から考えていきたいと思っています。今日は本当に学ばせていただき、有り難うございました。(↑ぜひ、いい先生になってくださいね。そしてこの例会で発表できる日を!!)
- 現代的課題のテロについて社会科で教材化することや、時事問題として授業することは、教師の社会的認識が問われるかもしれません。なぜならテロ問題をさかのぼれば、旧ソ連とアメリカの冷戦や、イラン・イラク戦争、アフガン侵攻、パレスチナ問題、ベトナム戦争、朝鮮戦争というように、第二次世界大戦後も日本を除く多くの国が戦争、又は紛争状態にあることに気付くからです。世界のどこかで悲しい負の連鎖が続いていることがわかるからです。「日本はどうか?」そんなことを子どもが考えるきっかけとして、この授業の意味はとても大きいと思います。
- 10年前、私自身が「ニュースで9. 11事件の映像を見た時のこと」をふり返りました。何かすごいことがニューヨークで起きたということ、大変な事件が起きたということ、このテロによって多くの死者が出たということ、はわかっていましたが、なぜこの事件がここまで大変な事件とされているか、ということは、当時は全くわからず、知ろうという気持ちもそこまでなかったように思います。正直なところ、日本からはるか遠いニューヨークで起きていることだから、関係ないだろうと、当時中学生だった私は感じ、他人事のように考えていたと思います。当時、このような感じ方・考え方であった自分自身を今ふりかえると、はずかしい思いでいっぱいです。だからこそ、”知らない”ということの恐ろしさも感じています。「何か私たちにもできないか」という思いから「まず、知ることから始まる」ということを目の前の子ども達に伝えていきたいと強く感じました。今日の実践報告でまた教師として持つべき視座の大切さを教えていただきました。有り難うございました。
- 今日はありがとうございます。現在一緒に社会の授業を行っている西村先生のお話を聞くことができて良かったです。授業を作っていく上で、先生が何を大切にされているのかを改めて考えることができました。私は今日の報告を聞き、日常にもNIE活動をさらに取り入れていきたいなと思いました。私立小学校だけでなく、公立小学校の先生方のお話も聞けて、たくさん勉強させていただきました。

—10月例会のご案内—

10月例会：「浅川地下壕保存の会」との共催

日時：2011年10月22日(土) 13:00~16:00
場所：八王子労政会館(JR八王子駅北口徒歩10分、京王八王子駅徒歩5分)
内容：活動報告・引き揚げ者の体験談

今回は、保存の会の皆さんと共同での学習会となります。シベリア抑留者の引き揚げ体験を聞く貴重な機会です。今を生きる私たちが過去の歴史を学ぶ時、体験者のお話を次に伝承する大切な役割があるのです。ぜひ、この機会をお聞き逃し無く。